

◆水明インターネット句会◆																				令和五年三月	
20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
新作のショウウインドウ春の宵	桜鯛不合格とは言へぬまま	縞模様富良野の畝の残り雪	耕運機音軽やかに春の畑	春寒や祇園に逆さ箒立ち	足生えて蝌蚪は尻尾を持て余す	避難民に希望届けよ花ミモザ	畳目の残るスカート卒業式	涅槃西風終日くしやみ止めきれず	春の野に千草はすべて名を持ちぬ	亀鳴くや「ら」抜き言葉のアナウンサー	薔薇の芽や頑固な父の咳払い	つばくらめ一枚張りの空の色	轉りのまだ覚束（おぼつか）な藪の闇	水温み躊躇ひもなく堰落つる	惜春やゆっくり閉じる絵具箱	存分に春の風吸ふ象の鼻	恋猫の夜声まねをし笑ひ合ふ	春雷や止まった脈が動き出す	清水や舞台の上の春コート		

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	◆水明インターネット句会◆ 令和五年三月
時移り周りそのまま春となる	笑ひ声あつけらかと卒業す	ミモザ咲くミモザハウスと呼ばれけり	夏蜜柑気丈な姉の嫁ぎ行く	別れても雪の名残が燃えてゐる	浅草の春の俤に二人乗	制服のスカート折り上げ水温む	居続けの暖簾上げれば春の雪	「ただいま」も言はず飛び込む春夕焼け	雲雀止み大地に動くものもなく	流水や国と国とを繋ぎをり	アルプスの雪解の瀬音響き合ふ	レトルトのカレー温め震災忌	保護猫と暮らし十年喜寿の春	歌ふごと軽き足取り春日傘	青空や黒点となる揚雲雀	返事なき不安つつみて春シヨール	朽ち果てし野外劇場犬ふぐり	糸柳川風入るるカフェテラス	靴底を大いに減らし卒業す	

◆水明インターネット句会◆																				令和五年三月
41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	
菜の花や今宵天麩羅すまし汁	春一番パーマネントの阿修羅像	退屈を楽しむ小椅子水温む	佐保姫をいざなふ寺のライブかな	永き日に何処やら聞こゆ馬鹿笑い	三代の雛飾りて孫笑顔	青空に満面の笑みいぬふぐり	啓蟄や片減りしるき竹箒	途中下車とある喫茶のヒヤシンス	ポスターに「0歳児募集」春の虹	啓蟄や刺抜き地蔵の黒光り	蓬餅蘊蓄添へる茶店かな	のどけしやたんぽぽ咲かせ藁の屋根	苗木植う成長した子の顔浮かべ	流水や望郷つのる数多の碑	海鞘食はばはや蠟涙の十二年	水にいろ風に色あり春めける	荏苒の暮らし切替へ春迎ふ	春眠の覚めて夢からまだ醒めず	すれ違ふ若きランナー花堤	

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	◆水明インターネット句会◆ 令和五年三月
箸先にのせて蒔味噌エビス生	桃の花行きつ戻りつ三途川	靴紐が解けたのは春の星星	春驟雨頬に張り付く後れ髪	苗木市養子にもらい受けるかに	うらうらや天動説を疑はず	春彼岸太っちょ猫の背伸びして	名物の親爺廃業春尽けり	春一番波打つ草の堂々と	公園の異国の踊り春の風	園庭の子ら春を呼ぶ「もういいよ」	終の地と定めし故郷風光る	日差し伸ぶ小児病棟張子雛	へり行ける鈍色の空鳥帰る	花辛夷夕闇せまる印刷所	縁側に砂塵うつすら春嵐	春空に煉瓦煙突酒の郷	いにしえの灯台黒し春の湖	啓蟄や庭師の声の端切れ良し	第二ボタン外し待てども卒業子	

																		82	81	◆水明インターネット句会◆	令和五年三月
																		老いてなお郷へ思い春の暮	囀りも糞も激しや今朝の路		